

【方法】 クラレ社製 KPS-8800 Ce を使用。血漿成分分離器はエバフラックス 2 A~5 A を疾患により選択。血漿処理量は 2.5~3 L を目標として、アルブミン製剤の補充なしとした。

【結果】 総施行回数 52 回。平均アルブミン除去率は 14.7% で、ASO・紫斑病性腎症患者では症状の改善が見られた。

【結論】 加温式リサーキュレーション法による二重濾過血漿交換は、アルブミン製剤を必要とせず、各種疾患に有効な治療法である。

14. 重症急性膵炎における蛋白分解酵素阻害剤、抗生物質動注療法と血液浄化療法併用療法の検討

酒井輝文・峯苔智明・吉貝浩史・住江博明

中野聖士・成田高三郎・辛島 卓

雪ノ聖母会聖マリア病院消化器内科

重症急性膵炎の死亡率は高く、その stage によっても異なるが、確実に 10% 以上の死亡率である。そのため本疾患の救命には、様々な治療法が取り入れられている。近年、重症化するメカニズムにトリプシン等の蛋白分解酵素によるカスケードセオリー以外に、サイトカインの関与が考えられている。そこで私どもは、蛋白分解酵素阻害剤と抗生物質の動注療法にサイトカイン除去を目的とした血液浄化療法を併用し、良好な結果を得ている。今回、私どもは動注単独療法と動注療法と CHDF 併用療法の結果を比較し有効性の検討を行う。

〈技術講習会 1〉

アフエレシスにおける安全で効果的な治療の実現のための対策

江口 圭

東京女子医科大学腎臓病総合医療センター

血液浄化療法科

近年、体外循環をともなうアフエレシス療法の分野では、安全性を視野に入れた専用装置の開発や種々のモニタリング機構の採用により、安全かつ効果的な治療の実現が可能となった。それらの中でも、CRIT-LINE に代表される循環血液量 (BV) モニタは、ブラックボックスであった治療中の患者の BV 変動を簡便に監視できることから、その有用性が報告されている。現在我々は、BV モニタをアフエレシスの分野に応用して、各治療法別の BV 変動を観察・分類し、安全で効果的な治療の実現に努めている。安全かつ効

果的な治療の実現には、以下に示す種々の要因が複雑に絡み合っている。1. 抗凝固剤の適正な使用、2. 置換液の量・濃度の設定、3. プライミングボリュームへの配慮、4. BV モニタの活用、5. タンパク除去率の計算法 (Hct 補正)。これらを考慮すれば、血圧低下を防止し、目的とする所定の処理を完了できる。今回はこれらの内容について、1 つ 1 つわかりやすく解説する。

〈技術講習会 2〉

関節リウマチ (RA) における白血球除去療法 (LCAP)

有富正治

旭メディカル(株)開発技術部

関節リウマチ (RA) は、関節に痛みや腫れが起きる炎症性疾患である。長期間にわたって病状が進行し、関節部分の変形と機能障害を引き起こす。RA の病因については、まだ不明な部分も多いものの、自己免疫疾患の一つと考えられている。RA の治療は、一般的に対症療法薬として非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs) や、病態を是正するものとして疾患修飾性抗リウマチ薬 (DMARDs) が用いられている。特に、メトトレキサート (MTX) は、難治性 RA の治療において最も多く処方されている DMARDs の一つである。さらに近年のバイオテクノロジー技術の進歩により、TNF といったサイトカインに結合して、その生理活性を阻害する蛋白性医薬品など、新たな抗リウマチ薬も開発されている。これらの医薬品は、それぞれ高い有用性が示されているものの、副作用も数多く報告されており、その使用に関しては注意を要するものが多い。一方、旭メディカル(株)製セルソーバ™を用いた白血球除去療法 (LCAP) は、さまざまな疾患の治療法に展開されている。RA 治療に関しても臨床研究により、その有用性が見出された。LCAP は、今までの治療実績において、副作用が少ないことが報告されており、RA 治療においても、新たな選択肢の一つとなることが期待されている。なお、LCAP は、炎症性疾患である潰瘍性大腸炎 (UC) の治療において、既に保険適用を受けている。本発表では、LCAP の全般について紹介し、LCAP の作用機序、利点等を解説する。また、実際に RA 治療において LCAP を実施する際のデバイス、装置、操作法などについて紹介する。